**2017年2月第4週メッセージ**

**「あ」たらしい「い」ましめ**

**田坂 元彦 牧師**

　先週キム･ヨンテ先生を通して､神様は私たちに教えてくださいました。花婿に愛されていることを喜ぶだけでなく､花婿を愛する花嫁､花婿主イエスとだけ一つに結ばれ愛しあう花嫁の教会として生きること。悪魔も必死に私たちを主の愛から引き離そうと日夜忍び寄ってきます。ですから毎日､何度でもイエスさまの名前を呼び､宣言しましょう。「イエスさま､愛してます！」「私はあなたの花嫁です！」「サタンよ､下がれ！」ぜひ先週のメッセージを何度でも聞いてください。そして､永遠のキリストの花嫁としての準備を今週も喜び進めてまいりましょう。今週の御言葉は､ヨハネの福音書11章の終わりから､12章13章へ進んでいきます。

**11:55 さて､ユダヤ人の過越の祭りが間近であった。**主イエスの公生涯で三度目かつ最後の過越です。一度目の過越は2章でカナの婚礼の後､主イエスはエルサレムの神殿の宮きよめをされました。二度目の過越は6章で主イエスはガリラヤにとどまって五千人にパンと魚を分け与え､「いのちのパン」である主イエスの肉を食べ血を飲んで永遠に生きよ､と言われました。そしてこの11章の終わりから20章までの三度目の過越の時に､主イエスが十字架で割かれた肉と流された血潮により､私たちはよみがえりの永遠のいのちをいただいたのです。実に福音書の半分が､過越の祭りの主イエスの証言に費やされています。なぜなら､主イエスの十字架と復活こそが本当の過越だからです。昔のエジプトの過越は､主イエスの過越を待ち望むためのしるしでした。神を忘れた世の奴隷民のうめきを聞いた神はアブラハム､イサク､ヤコブとの契約を思い起こされ､契約を守り神に聞き従う家族を､ご自身の祭司の王国･聖なる国民(出19:6)として聖別し､小羊の血で罪を覆ってこの世の君から買い戻し､約束の地へ連れ戻してくださいました。約束の地。そこは聖い愛の神が共に永遠に住むためにアダムを置かれたエデンの園であり､祭司メルキゼデクとダビデを王として置いたエルサレムの都。このアダムもメルキゼデクもダビデも､やがて来るメシヤを表す型でした。そしてイエスさまはいよいよ油注がれたメシヤとしてエルサレムへ入り､神の小羊として十字架の血潮で罪の奴隷の私たちを御声に聞き従う神の家族とし､神と生きる永遠のいのちへとよみがえらせてくださいました。**11:55 多くの人々が､身を清めるために､過越の祭りの前にいなかからエルサレムに上って来た。**過越は､昔の出エジプトの記念ではありません。主のために今日この世から聖別される献身です。聖なる神の御前で仕える祭司として､すべてを治める王の家族として､身も心も献げるわけです。神と生きるいのちに献身することは､すなわち､罪と死から離れることです。**ローマ6:23 罪から来る報酬は死です。しかし､神の下さる賜物は､私たちの主キリスト･イエスにある永遠のいのちです。**ですから過越の祭りに参加する者は､必ず水のバプテスマで全身を洗い聖めてから､傷一つ無い聖い小羊のいけにえをささげて食べます。死体によって身を汚している人は過越の祭りに参加せず､翌月に「月遅れの過越」に参加しなさいと民数記9章で神様が言われるほど､過越の食事への参加には聖さが問われました。ヨハネ11章でなぜイエスさまがラザロの死に際に駆けつけて立ち会わなかったのか。皆さんもうお分かりですよね。大切な過越の祭りを前にして､イエスさまも弟子たちも聖さを保つ必要があったからです。多くの人々が水のバプテスマで全身を洗い聖め､小羊をささげて食べました。しかし､私たちを本当に罪から聖めたのは､十字架で自らをささげられた神の小羊=主イエスの血潮と､聖霊と火のバプテスマだったのです。

**12:1 イエスは過越の祭りの6日前にベタニヤに来られた｡ そこには､イエスが死人の中からよみがえらせたラザロがいた｡ 2 人々はイエスのために､そこに晩餐を用意した｡ そしてマルタは給仕していた｡ ラザロは､イエスとともに食卓に着いている人々の中に混じっていた｡ 3 マリヤは､非常に高価な､純粋なナルドの香油300gを取って､イエスの足に塗り､彼女の髪の毛でイエスの足をぬぐった｡ 家は香油の香りで一杯になった｡ 4 ところが､弟子のひとりで､イエスを裏切ろうとしているイスカリオテ･ユダが言った｡ 5「なぜ､この香油を300デナリに売って､貧しい人々に施さなかったのか｡」6 しかしこう言ったのは､彼が貧しい人々のことを心にかけていたからではなく､彼は盗人であって､金入れを預かっていたが､その中に収められたものを､いつも盗んでいたからである｡ 7 イエスは言われた｡「そのままにしておきなさい｡ マリヤはわたしの葬りの日のために､それを取っておこうとしていたのです｡ 8 あなたがたは貧しい人々とはいつも一緒にいるが､わたしとはいつも一緒にいるわけではないからです｡」9 大ぜいのユダヤ人の群れが､イエスがそこにおられることを聞いて､やって来た｡ それはただイエスのためだけではなく､イエスによって死人の中からよみがえったラザロを見るためでもあった｡ 10 祭司長たちはラザロも殺そうと相談した｡ 11 それは､彼のために多くのユダヤ人が去って行き､イエスを信じるようになったからである｡…20 さて､祭りのとき礼拝のために上って来た人々の中に､ギリシヤ人が幾人かいた｡ 21 この人たちがガリラヤのベツサイダの人であるピリポのところに来て､｢先生｡ イエスにお目にかかりたいのですが｡」と言って頼んだ｡ 22 ピリポは行ってアンデレに話し､アンデレとピリポとは行って､イエスに話した｡ 23 すると､イエスは彼らに答えて言われた｡ ｢人の子が栄光を受けるその時が来ました｡ 24 まことに､まことに､あなたがたに告げます。一粒の麦がもし地に落ちて死ななければ､それは一つのままです｡ しかし､もし死ねば､豊かな実を結びます｡ 25 自分のいのちを愛する者はそれを失い､この世でそのいのちを憎む者はそれを保って永遠のいのちに至るのです｡ 26 わたしに仕えるというのなら､その人はわたしについて来なさい｡ わたしがいる所に､わたしに仕える者もいるべきです。もしわたしに仕えるなら､父はその人に報いてくださいます。27 今わたしの心は騒いでいる｡ 何と言おうか｡『父よ｡ この時からわたしをお救いください｡』と言おうか｡ いや｡ このためにこそ､わたしはこの時に至ったのです｡ 父よ｡ 御名の栄光を現わしてください｡｣ そのとき､天から声が聞こえた｡「わたしは栄光をすでに現わしたし､またもう一度栄光を現わそう｡」29 そばに立っていてそれを聞いた群衆は､雷が鳴ったのだと言った。ほかの人々は､｢御使いがあの方に話したのだ｡」と言った。30 イエスは答えて言われた｡「この声が聞こえたのは､わたしのためにではなくて､あなたがたのためにです。31 今がこの世のさばきです。今､この世を支配する者は追い出されるのです。32 わたしが地上から上げられるなら､わたしはすべての人を自分のところに引き寄せます｡｣ 33 イエスは自分がどのような死に方で死ぬかを示して､このことを言われたのである｡…13:1 さて､過越の祭りの前に､この世を去って父のみもとに行くべき自分の時が来たことを知られたので､世にいる自分のものを愛されたイエスは､その愛を残るところなく示された｡ 2 夕食の間のことであった｡ 悪魔はすでにシモンの子イスカリオテ･ユダの心に､イエスを売ろうとする思いを入れていたが､3 イエスは､父が万物を自分の手に渡されたことと､ご自分が神から出て神に行くことを知られ､4 夕食の席から立ち上がって､上着を脱ぎ､手ぬぐいを取って腰にまとわれた｡ 5 それから､たらいに水を入れ､弟子たちの足を洗って､腰にまとっておられる手ぬぐいで､ふき始められた｡ 6 こうして､イエスはシモン･ペテロのところに来られた｡ ペテロはイエスに言った｡ ｢主よ｡ あなたが､私の足を洗ってくださるのですか｡｣ 7 イエスは答えて言われた｡ ｢わたしがしていることは､今はあなたにはわからないが､あとでわかるようになります｡｣ 8 ペテロはイエスに言った｡ ｢決して私の足をお洗いにならないでください｡｣ イエスは答えられた｡ ｢もしわたしが洗わなければ､あなたはわたしと何の関係もありません｡」9 シモン･ペテロは言った｡「主よ｡ 私の足だけでなく､手も頭も洗ってください｡｣ 10 イエスは彼に言われた｡ ｢水浴した者は､足以外は洗う必要がありません｡ 全身きよいのです。あなたがたはきよいのですが､みながそうではありません｡｣…12 イエスは､彼らの足を洗い終わり､上着を着けて､再び席に着いて､彼らに言われた｡ ｢わたしがあなたがたに何をしたか､わかりますか｡…14 それで､主であり師であるこのわたしが､あなたがたの足を洗ったのですから､あなたがたもまた互いに足を洗い合うべきです。15 わたしがあなたがたにしたとおりに､あなたがたもするように､わたしはあなたがたに模範を示したのです｡…17 あなたがたがこれらのことを知っているのなら､それを行うときに､あなたがたは祝福されるのです｡…34 あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように､そのように､あなたがたも互いに愛し合いなさい。35 もしあなたがたの互いの間に愛があるなら､それによって､あなたがたがわたしの弟子であることを､すべての人が認めるのです｡」**